

災害時の避難行動を促進するメッセージについて（案）

令和元年 5 月 16 日

1 経緯

- 平成 30 年度防災・減災に関する県民意識調査では、平成 30 年 7 月豪雨に関する県民の避難行動等研究チームのご意見を踏まえ、「どのようなメッセージが県民の避難行動につながるのか」を探るためのアンケート調査を併せて、実施した。
- このアンケート調査において、災害時の避難行動を促進するための 6 つのパターンのメッセージで反応を比較したところ、次のメッセージが避難行動を促進する可能性が高いことが集計結果によりわかった。

避難の呼び掛けとして有効なメッセージ

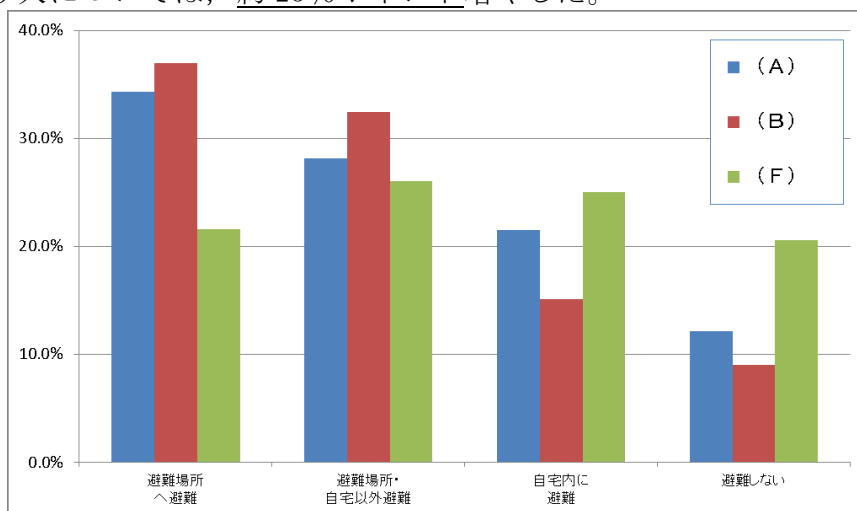
- (A) これまで豪雨に避難勧告で避難した人は、まわりの人が避難していたから避難したという人がほとんどでした。
あなたが避難することは人の命を救うことになります。
- (B) これまで豪雨に避難勧告で避難した人は、まわりの人が避難していたから避難したという人がほとんどでした。
あなたが避難しないと人の命を危険にさらすことになります。

2 お願い事項

- 令和元年の出水期（6 月）より、別紙のとおり「警戒レベル」を用いた避難情報が発令されます。
市町から「警戒レベル 3，4」が発表された場合、市町や報道機関など、避難を呼びかける皆様には、避難の呼び掛けとして有効なメッセージのご活用を検討してください。
- 5 月下旬頃には、本調査結果を踏まえた避難の呼び掛け雛型リーフレットを作成し、配布する予定です。
なお、報道機関等の皆様には、雛型リーフレットを作成するにあたり、当内容をご説明させていただくとともに、ご意見をいただきたい。

3 調査内容及び結果の概要

- 対象者：県内在住の満 18 歳以上の男女 10,000 人
- 調査期間：平成 31 年 2 月 28 日(木)～3 月 22 日(金)
- 有効回答数：5,598 件（回答率 56.0%）
- 調査内容：
避難促進メッセージと豪雨が発生した仮想的状況のもとで、メッセージを読んでもらい、避難勧告が出された場合の避難行動を問う
郵送する調査票には、6 つのメッセージをランダムに付与（各約 1,666 件）
- 調査結果：
従来、県で用いられてきた避難行動促進のメッセージ(F)に比べて、メッセージ(B)は、避難場所に避難するという人を、約 16%ポイント増やした。また、自宅以外に避難するという人については、約 23%ポイント増やした。



※この調査の集計結果については、現在、平成 30 年 7 月豪雨に関する避難行動等の研究チームにより分析中

4 今後のスケジュール（予定）

5月中旬 各市町に「避難の呼び掛けとして有効なメッセージの内容」を周知するとともに、各報道機関と意見交換

5月下旬 報道機関、有識者等の意見を踏まえ、市町・報道機関等用 避難の呼び掛けの雛形（TV・SNS・メール・防災行政無線等）リーフレット作成し、配布

※広報ポスター等も有識者の意見を踏まえ作成予定

【参考】

メッセージ（F）

「毎年、6月始め頃の梅雨入りから秋にかけて、梅雨前線や台風などの影響により、多くの雨が降ります。

広島県でもこれまでに、山や急な斜面が崩れる土砂崩れなどの災害が発生しています。大雨がもたらす被害について知り、危険が迫った時には、正しく判断して行動できる力をつけ、災害から命を守りましょう。」